

政務活動費活動報告（視察）

(1) 出席者（会派名・個人名）

会派：夢みらい 小川 喜三郎

(2) 実施日：平成27年8月31日～9月1日

【1. 調査の目的】加茂市

(1) 本市における現状

高齢者および障害者等福祉施策の推進や在宅介護・看護の新たな住民サービスをさらに推進しなければならない。

(2) 本市における課題

認知症対策やまだまだ啓発等の必要な認知症の正しい理解や早期発見さらにサポートセンターの設置、サポーターの養成など課題が多い。

【1. 調査の目的】長岡市

(1) 本市における現状

定住自立圏構想による拠点図書館（中央図書館）建設や国民体育大会の主会場の整備に伴い、市民体育センターの移転新築が必要である。

(2) 本市における課題

図書館は本を貸すだけの業務ではなく、市民の情報の発信の場所、交流の場所であるが現図書館はそうはなっていない。一方、市民体育センターにおいては、大会の誘致やフロア面積、観覧席数などハード面やソフト面では市民の体力向上など政策面でも課題がある。

【2. 調査地選定理由】

(1) 調査項目

- ・全国一といわれる在宅介護・看護システムや施設介護の先進的取り組みを推進されている。
- ・図書館は、中央館はそのままで地域館の充実をされている。体育館は、全国規模の集会のほかプロスポーツや音楽会、講演会を誘致する他、市民のスポーツ施設として活用されている。

(2) 選定地1：

加茂市特別養護老人ホーム（全国初の身体障害者療護施設併設）

選定地2

長岡市中央図書館及び長岡市立体育館

【3. 調査結果】

(1) 内容

加茂市の在宅支援制度は、ヘルパーの派遣手数料、訪問看護利用料、訪問リハビリのいずれもを無料化されている。老人福祉センター（加茂市ではコミュニティセンター）の充実などの施策により、元気な高齢者を市長のトップダウンで展開されていた。

長岡市では、図書館の地域館に加え支所等でも予約による本の貸し出しを実施されていた。体育館では、多くの市民が活用されており、当日は体育館を分割し卓球、バドミントン、ママさんバレーを、観覧席周辺を使ったジョギング・ウォーキングコースの利用を武

道場ではエアロビクスが地下では、親子のリズム教室として利用されていた。

(2) 考察

加茂市では、無料化をされているにも関わらず、健康な高齢者が多く施設入所の経費が縮減され、介護保険料は新潟県内で一番低額であった。しかし、国保財政は毎年赤字であること。福祉経費の増大から他の事業への影響は少なくないようであった。この点について問うと現在は、市民からの政策転換等の要望はないとのことであった。

長岡市では、図書館は市民の交流の場と位置づけ開館の時間までに十数人の方が待っておられた。主は分館の機能強化と支所での借り入れのPRを充実する必要があるそう。体育館では、メインアリーナは最大5千人収容で、国際大会や興行があるが、利用のない日は市民への開放を積極的に行っておられた。団体での利用には予約が必要であるが、個人使用には、受付窓口の前にある、利用自動販売機で券を購入して利用することとされていた。本市と人口規模は少し違うが、施設利用度は非常に高いと感じた。